

令和7年10月29日

超低出生時代を迎えた津久見市の
小学校の在り方検討委員会委員長 様

津久見市教育委員会
教育長 後藤 榮一

超低出生時代を迎えた津久見市の小学校の在り方について

次の事項について、理由を添えて諮問します。

- 1 超低出生時代を迎えた津久見市の今後10年間の小学校の在り方について
- 2 魅力ある小学校づくりや質の高い小学校教育を提供できる環境づくりについて

(理由)

津久見市教育委員会では、平成16年当時、過疎化や少子化等による学校の小規模化や、将来的な児童生徒の減少傾向を踏まえ、適正規模の学校整備について検討委員会を立ち上げ、①子どもにとっての教育の一層の充実を図る ②全市的な立場から教育環境の整備を図る ③教育予算の効率的な運用を図る の3点を柱に検討を進めました。

津久見市教育委員会では、検討委員会の提言を受け、平成17年3月31日付で次のような基本方針を定めております。

- 1 学校の適正規模について

小学校…少なくとも、各学年複式学級編制にならない規模であること。

- 2 学校の適正配置について

(1) 日代小学校を千怒小学校に統合する。

(2) 久保泊小学校を千怒小学校に統合する。 等

その後も児童数の減少等により統合が進められ、現在、小学校は、堅徳小学校、青江小学校、津久見小学校、千怒小学校と保戸島小学校の5校となっております。

また、今年度になり堅徳小学校は、県の基準でも2・3年生が複式学級の編制となっており、平成17年3月の基本方針に従えば、統合の検討を始めることとなります。

さらに、近年、出生数は減少傾向を強め、令和4年度37名、令和5年度43名、令和6年度38名となっており、小学校の維持等についても検討を始める必要があります。

つきましては、「超低出生時代を迎えた津久見市の今後10年間の小学校の在り方について」並びに「魅力ある小学校づくりや質の高い小学校教育を提供できる環境づくりについて」ご審議の上、答申していただきたく、諮問するものです。